

「天意により人間萬物に使命あり」

(昭和四十年 七月発行)

人は一人々々が性格を異にし、氣質を異にし、相を異にし、心相を異にしている。これは神が人相應の使命を一人々々に與えられている結果である。人の務めの道は、地上に生れ落ちてから神の御力によって育てられ、神から授けられている自分の特徴と使命を自覚して、神の御意思そのままの天命を明らかにして、その使命を果たすことにある。

自分の使命を心に覚るならば、自然に人は神の御意(ミココロ)に従って秩序正しい生活をするようになるのであるが、反対に御意思を知らず、人間知識だけで押し進めて行くならば、世は暗くなるのである。この使命は、人間ばかりでなく、萬物にも使命がある。これは微細に萬物を違つて造り給うた神の御力の大神術によるのである。三十二億の多数の人が、形は人間として大小はあつても、同じように神によって造られてはいるが、国が変れば人種も変り、同じ人種でも體質・風貌が皆違つており、風習・習慣によつて思想も異つていようように、萬物も同じである。木も萬種あつて松の木だけでも百五十種以上もある。木としては形は同じであつても、枝振り葉振りは同じものではなく総て變つていゝ。草花も同様で、菊にしても萬種がある。形は同じであつても、花の恰好は同じものはない。これ実に微細な神の御働きを表明しているものといえる。萬物はすべて天命によつて産み生かされるものであつて、悉くが使命を持っている。そして宇宙間にありとあらゆるものは、一つ一つが使命を果たしており、網の目のように総てが組織的に組合わされて、莊嚴に生活しているのである。各々に天職使命が仰せつけられており、その天職使命によつて組織立てられている宇宙である。実に深遠微妙であつて、萬物の活動が一つ欠けても宇宙は成立しないということがいえる。あらゆるものが一つでも不足のある時は今という日を迎えることは出来ないのである。